

ブラジル大統領選挙の決選投票ラウンドの最新動向

- 大統領選挙の決選投票ラウンド最初の世論調査で、ボルソナロ氏が有効票の58%の支持を得る(ハダジ氏は42%)。
- 第一回投票で敗退したPSDBなど中道政党は、党としては決選投票において特定候補を支持しない中立姿勢を示す。
- 第一回投票でアルキミン氏を支持した有権者の54%はボルソナロ氏支持を表明(隠れボルソナロ支持者が増加)。
- 決選投票ラウンド初期でのボルソナロ氏の支持率の優位は、ルーラ氏初当選の2002年の大統領選挙以来の高水準。

ボルソナロが決選投票に向けて優勢を維持

2018年のブラジル大統領選挙は、第一回投票上位2名のボルソナロ氏(PSL)とハダジ氏(PT)による決選投票(10月28日実施)に進むことが決まっています。

10月10日には決選投票ラウンドに入って最初の世論調査が公表されました(図1)。白票・未決定票を除いた有効票ベースの支持率で、ボルソナロ氏が58%という過半数を上回る支持を得たのに対して、ハダジ氏の支持率は42%と低迷しました。現状では、ボルソナロ氏が大統領選挙の第一回投票からの優勢を維持している模様です。

中道政党は決選投票への中立姿勢を示す

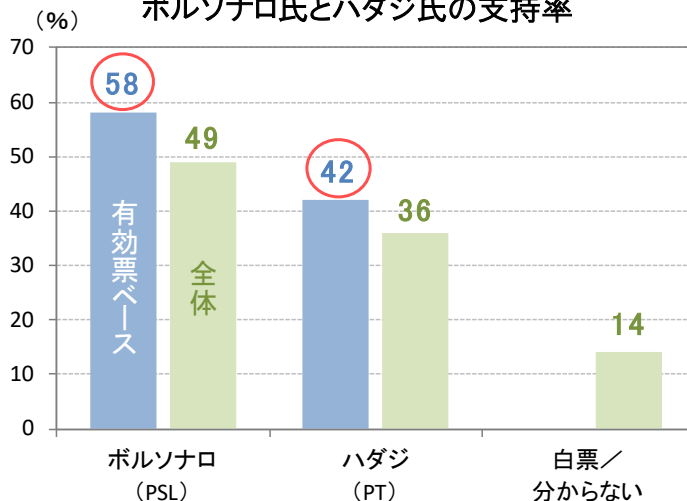
また、第一回投票で敗退した主要政党の中では、PSDBやDEMなどの中道政党は「党として決選投票において特定候補を支持しない中立姿勢」を示しました。ボルソナロ氏への正式支持を表明した政党はPTBとPSCの二政党に留まり、ハダジ氏には左派政党を中心にPDT、PSB、PSOL、PPLなどの政党の支持が集まりました。

もっとも、上述の世論調査では、第一回投票でアルキミン氏(PSDB)を支持した有権者の54%がボルソナロ氏への支持を表明するなど(ハダジ氏への支持は32%)、中道政党支持者の間でボルソナロ氏を支持する動きが広がりがつつあることが明らかとなっています。

ボルソナロの支持率の優位は02年以来の高水準

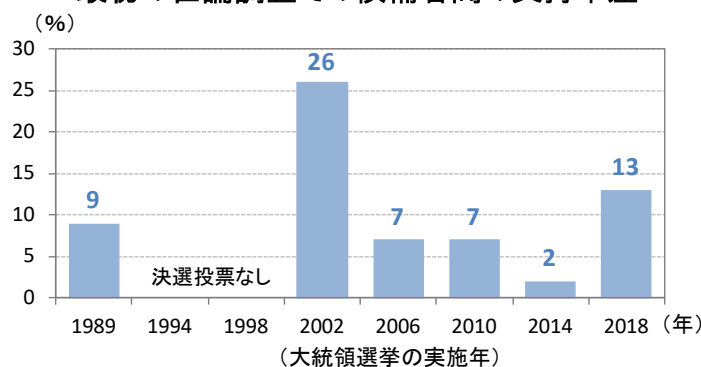
決選投票ラウンドの初期段階でボルソナロ氏とハダジ氏の支持率差(全体ベース)が13%も大きく開いたのは、ルーラ元大統領が初当選した2002年の大統領選挙(26%)以来となります(図2)。ハダジ氏が10月28日の決選投票日までの短い選挙期間でボルソナロ氏との支持率差を逆転することは容易ではなさそうです。

図1:ブラジル大統領選挙の決選投票でのボルソナロ氏とハダジ氏の支持率



(出所)世論調査会社Datafolha (注)調査・公表は2018年10月10日。

図2:ブラジル大統領選挙の決選投票ラウンド最初の世論調査での候補者間の支持率差



- 1989年: コロール(勝者、PRN) > ルーラ(敗者、PT)
- 2002年: ルーラ(勝者、PT) > セーラ(敗者、PSDB)
- 2006年: ルーラ(勝者、PT) > アルキミン(敗者、PSDB)
- 2010年: ルセフ(勝者、PT) > セーラ(敗者、PSDB)
- 2014年: ネベス(敗者、PSDB) > ルセフ(勝者、PT)

(出所)世論調査会社Datafolha
(注)支持率差は白票・未決定票を含む全体ベースの支持率の差。「>」は支持率の優劣、「勝者」「敗者」は決選投票の最終結果を示す。